
鬼神様の仰せのままに

edenn

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鬼神様の仰せのままに

【Zマーク】

Z9792Y

【作者名】

eden

【あらすじ】

異世界転生モノの小説です。

興味のある方はどうぞ

説明文については書いていくに連れて変更します

プロローグ・始まりの船

蟲毒、中国で有名な呪法の一つであり一般には毒虫を利用して小さな箱に入れ、土に埋める。入れられた毒虫は1週間か、2週間、その頃になるとお互いに食料を求めて争いそして数ヶ月後、埋めた箱を

取り出し中を確認すると、生き残った一匹が残り、それらの毒素、恨み

憎しみが濃縮された虫が箱の中には残っているといわれている。それは主に呪いの類で利用され、人を苦しめ体調を崩させるなど様々な悪影響をもたらすものとして古来より伝わる呪法である。

大学進学が決まった冬の夜、紫咲しづき 慎一しんいち 18歳は
一人夜の漁港で釣りをしていた。

冷たく冷え込んだ風が慎一の体に吹き抜け、口元から死神の吐息のように白い
息が吐き出される。

その日は妙に魚が釣れた。

甘鯛や金目鯛、鰯などそれはもう青色のバケツがいっぱいになるほどたくさん。

波打つ音とどこからか聞こえる汽笛の音、この海ともじばりくの間、別れことになる。

それを見つと、慎一はどこかつづらな気持ちになつた。

一週間後には京都へ戻ることが決まつてゐる。

黒髪で眠そうな締りのない顔をした彼は手に握る竿をしまい、テ

トラポットの広がる

道をうまく飛び越えて、釣れた魚たちをクーラーボックスの中へ入れると、背に背負い

伊勢の香りを感じつつ漁港をあとにした。

深夜1時を回った頃、砂浜を抜けるか街中を抜けるか、という選択を慎一は求められていた。

街を通ればすぐに家に帰ることができる。普段なら何も考えずに街の方向を選んでいただろう。

しかし、今日はもつと海を見ていたかった。気まぐれで彼は浜辺の道を選んだ。

それがすべての始まり、そして終わりの選択だったのかもしれない。

しばらく浜辺を歩いていると、大きな豪華客船を水辺線に見た。その大きさに思わず見とれないと、浜辺に小さな小ボートが目には飛び込んできた。

それには目隠しをされた女や男が載せられており、周囲に黒い服のこのあたりでは

見たことのない顔の男たち。思わず彼は物陰にその姿を隠し、その光景を釘いるように

観察する。

彼の本能が身の危険を感じ、その行動に移ったんだ、すぐにこの場所から退散しようと

体は警告しているが、慎一はそれを無視してその光景を見続けた。好奇心という奴は怖いもので、恐怖があるほどワクワクと、胸を鼓動させ、気持ちを

高ぶらせてしまう。冷静な判断力すら失わされるそれに、今彼は囚われていた。

だからこそ、背後に迫る影に全く微塵も築くことが出来なかつた。それに気づいた時はすでに後頭部を殴られ、意識を失う寸前の事である。

彼が目を覚ましたのはそれから時間後の事である。
時間は3時を回つていた。

その日、長い長い、深夜の死闘が繰り広げられることを彼はまだ
知らない……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9792y/>

鬼神様の仰せのままに

2011年11月29日17時49分発行